



南アルプス市立図書館
館長

森田享子

本との出会い、司書との出会い

幼い頃、母がよく昔話を読んでくれました。忙しい母でしたから、その時間は宝物でした。

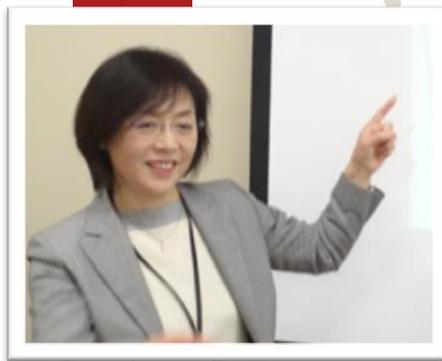
小・中学生時代には、図書室に学校司書がいました。いつも笑顔の司書がいたことを、当時読んだ本と一緒に思い出します。

本とふれあう仕事がしたいと意識したのは、高校の図書館司書との出会いです。凛として仕事をして

る姿に憧れ、その司書に会いたくて図書館に通いました。この出会いが、図書館司書の資格をとるきっかけとなりました。

社会人になった年に「ブックエイティ」という読書会に誘われました。なんとそのメンバーの中に、高校時代の司書がいました。その時の感動は忘れられません。本との出会いとともに人との縁を感じた瞬間

でした。今でもふとしたときに、本と一緒に紹介してくれた人を思い出します。きっとその人に対する「信頼」という大切な土台があるからだと思います。



小・中学校、そして市立図書館に勤務してから素晴らしい司書との出会いがありました。先輩司書は、本と人を結ぶために「図書館に人を！」と司書職の確立に尽力し、現在の市立図書館の基盤を作りました。その強い思いは今も私たちに引き継がれています。

図書館は、本と人、人と人との出会いの宝庫です。そして、南アルプス市には熱意を持った「信頼できる司書」がいます。ぜひ南アルプス市立図書館で素晴らしい出会いを。

みなさまのご利用をお待ちしています。



<職員研修にて講義する 森田図書館長>

全国優良読書グループ表彰 受賞

南アルプス市立図書館朗読ボランティア

「すずの会」

この表彰は、公益社団法人 読書推進運動協議会の「読書週間」事業のひとつとして、全国の優良読書グループを対象に行われています。

今年度山梨県内では、「南アルプス市立図書館朗読ボランティア すずの会」(水上けい子代表)が受賞し、第32回山梨県図書館大会(平成30年11月30日開催)で表彰されました。

同会は市立図書館の朗読会「いきやりどころ」「秋のひととき朗読会」や安藤家住宅で行われる朗読会に出演するなど多くの行事に協力いただいています。これからのますますのご活躍をお祈りします。



<水上代表の受賞あいさつ>

「すずの会」のあゆみ

Since 1989

平成元年、櫛形町立図書館(現・中央図書館)主催の朗読講座の受講生により結成。当初は7人のメンバーで“声の広報”として町で発行される広報を録音テープにして、視覚障害者に宅配を行う。

現在は、発足当時の活動歴30年のメンバー5人、その後図書館で開催された朗読講座受講生が加わり、16名で活動。図書館主催の朗読会のほか、市の広報や議会だよりの朗読録音、福祉施設での出前朗読など、様々な機会に朗読を行う。月1回の定例会で打ち合わせや報告をし、仕事と両立しながら活動を重ねる。



<表彰状を手に>

小野会員・水上代表・松上会員・沢辺会員

60 Tokyo Tower

「積み重ね つみ重ねても また積みかさね」

東京タワー

南アルプス市出身の建築家内藤多仲博士(1886-1970)が設計した「東京タワー」が還暦を迎えました。1958年の開業以来、東京のそして日本のシンボルとして親しまれてきた東京タワーは、今も「現役」のままラジオ電波の発信を続けています。

図書館の「未来テラス」には、内藤多仲博士の設計図を基に作った1/75の模型があります。また、展示コーナーでは内藤多仲博士や東京タワーに関する本も紹介していますのでぜひ読んでみてください。



<建設中の東京タワーの前にて>
本市出身の内藤多仲博士

中央図書館(055-280-3300) 中央図書館芦安分館(055-282-7285) 白根桃源図書館(055-284-6010)
八田ふれあい図書館(055-285-5010) わかくさ図書館(055-283-1501) 甲西図書館(055-282-7291)